

インフラ整備と人材育成で 生産性を向上させる、攻めの林業

森林整備と素材生産で県内の林業をけん引する、有限会社丸実。公的補助金を活用して山主の費用負担ゼロで森林整備と植林を行い、山主にリスクのない山林の資産化を提案。平成21年にはナラ枯れした森を伐採した後に植栽し、苗を

育てて20年後に元の森へ再生するプロジェクトを立ち上げた。伐採した木は新に加工してネットで販売。雑木林に価値を見出すことができなかつた山主にも山の再生と利用価値を高めた。平成25年に立案した森林経営計画で千ヘクター

ルの雑木林を預けてもらう目標もクリアし、今後はスギ林千ヘクターが目標。将来、出荷時に利用できるよう作業道を開設するなど、先を見据えた戦略が強みだ。高性能林業機械を使った作業の効率化も特徴。伐倒した木を無

駄なく搬出できるように、機械が作業・走行する森林作業道を開設することが重要だ。森林技術員は技術向上のために資格取得に積極的に取り組む。一人で何でもできる経験・知識・技術を身に付けた多能工人材育成にも力を注ぐ。

スギの二度目の間伐を行っていた村上市古屋敷の現場。集材作業の関係で斜面の上方に木を倒す上方伐倒を行っている五十嵐さん。上方伐倒は木の重心に逆らって倒すことになるので下方伐倒よりも高い技術を要する



①倒しやすい方向に受け口の深さを調整する、森林技術員3年目の五十嵐弘毅さん
②くさびも使って安全な上方伐倒に成功
③伐倒を行う、新井田和希さんは入社してまだ半年。「実際にやってみると難しいです。安全面に気を付けています」



緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌
 Niigata Forestry Magazine vol.6
 File 02
 林業事業体レポート ▶
有限会社 丸実 村上市



①フォワーダで材を積み込む作業を行う、佐藤恭平さんは3年目の21歳。「自然の中で仕事ができる林業は良い仕事です。若い人たちにも興味を持ってもらえたらうれしいです」と話す
②佐藤恭平さんと営業課長の本間郁朗さん。「林業を第一産業として成り立たせるため素材生産をしっかりやっていきたい」と話す本間さんは、新潟県内初の森林施業プランナー



緑の担い手



五十嵐 弘毅さん
IKARASHI KOUKI
[年齢:33歳 林業経験:3年目]

美しい山を次世代に繋げる

地元で貢献できる仕事をやりたいと思います、この仕事を愛していました。大学4年まで野球をやっていたので体力に自信もありましたし、自然も大好きなので、体力的に疲れても充実感があるのが良いです。付近には間伐遅れや手入れが行き届いていない山がたくさんあるので、しっかり整備して次の世代に繋げていきたい。私自身、子どもが4人いるので美しい山を残したいと強く思います。



新井田 和希さん
NIIDA KAZUKI
[年齢:40歳 林業経験:半年]

難しく、やりがいのある仕事

登山が趣味なので山に関係する仕事に興味があり、県の林業就業支援講習に参加しました。そこで「いい仕事だな」と実感し、入社しました。登山と違い、普段歩かない場所を歩くことから始まって、伐倒なども技術が必要で、難しいけれどやりがいがあります。今は測量を中心に伐倒や造材、刈り払いもやっていますが、早くみんなに追いつきたい。山の仕事をずっとやっていきたいです。



① 伐採した木を丸実自慢のロングリーチグラブがつかんで引っ張り上げる！伸縮式のアームは12メートル先の材をつかむことが可能だ ② ロングリーチグラブで引き上げた材をプロセッサで玉切りし、仕分ける。伐倒→グラブで引き上げ→プロセッサで造材と、作業道から離れた木でも効率の良い流れで生産性を高める ③ 和やかな雰囲気での休憩タイム、チームワークの良さは作業効率はもちろん、安全な作業にもつながっている

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち

事業体Data



有限会社 丸実

住所/村上市桃川1085-1 電話/0254-66-5628
設立/平成15年 資本金/300万円
従業員数/18人(森林技術員15人)
勤務時間/7:30~17:00 主な勤務地/村上市内
主な従事業務内容/森林整備、薪製造販売

事業主コメント 有限会社 丸実 常務取締役 渡邊 節子さん

うちでは木を伐って終わりではなく、木を伐ってから山の整備と植栽が始まります。山主さんから任せていただいた山をきちんと整備して世の中の役に立つ山にしたい。林業はどんどん変わってきているので会社としても林業の繁栄のために先を見て、戦略を立てます。若い人たちが楽しく仕事できる林業を考えています。

